

ガネフォ参加前後の記憶を辿って

ガネフォ水球

村川 吉高 (82歳)

(日本大学出身)

私は今年82歳になりました。最近記憶が弱ってきている様に感じています。昭和31年(1956年)日本大学に入学し、競泳を1年間努力してみましたが、パッとしませんでした。当時水泳部は、競泳から水球へ転向する学生が多数居た時代でした。

幸い水球の先輩から強い勧誘があり、2年生から水球を始める事になりました。来る日も来る日も巻き足と壁に向ってのハンドリング練習の繰り返しばかりでした。

3年生の春の室内選手権からは、ライトバックでレギュラーとなり、優秀なチームメイトに恵まれたお蔭で、度々優勝する事が出来ました。そして、夏の全日本水上選手権にも水球部門で優勝する事が出来ました。9月のインカレ(日本学生選手権)は、成城大学に同点ペナルティー負けとなり、涙したことをよく覚えています。

4年生の時は、水泳連盟の学生委員長として、成城大学の柴山君等とリーグ戦の組み合わせやルール作り、また、2部・3部のリーグ戦のレフリー割り振り等を決めたりしました。

昭和34年(1959年)は、室内選手権、関東学生水球リーグ戦、全日本水上選手権、インカレ(日本学生選手権)とパーフェクトの優勝を飾ることができました。そして、1960年のローマオリンピック候補選手として選ばれ、休み無しの大変な1年間を過ごしました。

昭和35年(1960年)4月、私は社会人になりましたが、色々なところで夜間、地方を問わず強化合宿がありました。しかし、夏の全日本水上選手権で見事に落選。ローマオリンピックには出場する事が出来ませんでした。しかし、この夏の競泳の400mで実業団東京代表として富山市に遠征したことがありました。

昭和36年(1961年)から昭和38年(1963年)までは、社会人水球チームの「58クラブ」で中央大学の先輩である浅沼さんとバックのコンビを組

んで楽しんでプレーしました。今でも脳裏に残っている相手選手は、早稲田大学の竹内・梶月、慶応大学の佐藤・清水、これらのコンビは何とかなりましたが、日本大学のフォアードコンビだけは、何ともなりませんでした。

当時私は、鷗田監督、神田ヘッドコーチと一緒に東京オリンピック候補選手の強化合宿にコーチとして同行しておりました。その時の主な選手は、清水、竹内、横山、飯田、桑原、酒井、房野等でした。この時期にガネフォの話が持ち込まれ、私は詳しく覚えていませんが、ガネフォに出場することになりました。すると、水連から水球委員を除名され、その後水連の仕事は一切なくなりました。

翌年の東京オリンピックは、ヨーロッパ同士の1試合を都のプールで観戦したことを覚えています。

ガネフォに出場したことにより日本大学の桜泳会も除名された為、碑文谷の日大プールにも出入りできず、一時期辛い思いをしました。

1970年3月、会社の人事異動により愛知県豊橋支店へ移動する事になりました。その地区には、県立豊橋商業高校があり、その高校に水球チームがあることを知り、石川顧問を訪ねました。10人ほどの部員でしたが、この春からポジションの入れ替えから指導に当たりました。

水球は、愛知・静岡から1チームの代表枠で大変でしたが、土日を主な指導日と決めて学校へ通いました。その結果、翌年の1971年の鹿児島国民体育大会に見事出場する事が出来ました。私は立場上（水連を除名されているので）国体参加を見送りました。このチームのメンバーから3名が日本大学へ進学してくれて、母校への恩返しも出来ました。

ガネフォに出場したことで一時はいろいろ辛い事もありましたが、ガネフォから9年後に水連への復帰がかなえられ、その後は日大OB会にも出席していますし、今は、ガネフォの友達と共に楽しい日々を送っています。



ガネフォ2周年記念会 (私)村川 (日の丸の前)